



甲賀市を中心に 大規模な防災訓練

災害に強いまちづくりを再認識

市では、地域防災計画や水防計画を策定し、地域の皆さんや関係機関との連携を図るなど、身近に起こるかもしれない災害にすばやく対応できるよう、各種防災訓練の実施や自主防災組織の育成強化に努めています。

この号では9月2日（日）に実施された滋賀県総合防災訓練の様子をお伝えします。



▲甲南庁舎ではしご車による高所救出訓練

- 1 女性消防隊による応急救護訓練
- 2 住民の皆さんのバケツリレーによる訓練
- 3 消防団による水防訓練
- 4 鉄道内での乗客救助訓練
- 5 地域の皆さんによる初期消火訓練（土山町猪鼻区）
- 6 陶芸の森でのヘリによる林野火災消火訓練
- 7 信楽町朝宮地区での炊き出し訓練



7

関係機関と災害時応援協定

市では、これまでに伊賀市をはじめ、（社）滋賀県建設業協会甲賀支部、（社）滋賀県エルピーガス協会甲賀支部、甲賀市管工事協同組合などと災害時応援協定を締結しています。これらの協定により、生活に欠かすことができないライフラインの復旧活動などが、必要となった場合には支援を要請できることとなっています。関係者の皆さんには、今回の訓練にも参加いただき、災害協定が実行性あるものとなるよう真剣に取り組んでいただきました。



▲生活に欠かせないガス、水道施設復旧訓練

大地震を想定し 市内各地で実施

市では災害対策本部を設置

9月1日の防災の日の時期に毎年県下で実施されている滋賀県総合防災訓練が9月2日（日）、甲賀市を中心に開催されました。

この日は、午前7時に甲賀地域で震度7の大地震が発生し、民家の倒壊や火災などで多数の死傷者が出たという想定で、各地でさまざまな訓練が実施されました。行政や民間の関係機関など148団体から約7500人が参加しました。

市では、地震発生直後に市役所甲南庁舎に災害対策本部を設置し、各職員が管内の被害状況を確認、土砂災害などの危険性がある地区に避難勧告を出すなど本部と現場とがスムーズに連携できるなどの訓練をしました。また、このほど構築した緊急情報伝達システムにより、全職員にメールや電話などを使った通信訓練を実施しました。約9割の職員から返信がありましたが、今後は全職員が

地域では自主防災組織の機能をチェック

万が一の大規模災害では、自分の身は自分で守ること、地域で力を合わせる大切が必要です。市内では現在、市全体の約半数にあたる99自治会が自主防災組織を設置しています。今回の訓練では、お年寄りに声をかけ、手を取り合って避難するなど、組織された体制で十分な役割を果たせるかどうかをチェックする機会となりました。



▲要援護者の方を助けながら避難所へ（信楽町朝宮地区）



▲災害対策本部で指示を出す
本部長の中嶋市長

災害に強いまちへ

今回の訓練では、関係の皆さんがさまざまな訓練を行い、災害時にそれぞれの機能が効果的に働くかを確認するなど目的をもって取り組むことができました。

しかし、実際に災害が発生した場合には、訓練の想定外のことや起こる可能性は高く、今回の訓練での問題点をしっかりと検討し、万が一のときに官民が協力できる災害に強い甲賀市をめざします。

防災対策に民間から支援

今回の訓練の炊き出し会場の一つ、朝宮地区（信楽）自主防災訓練では、8月20日（月）に（社）滋賀県エルピーガス協会甲賀支部から寄贈いただいたガス炊飯器4台を使用させていただきました。

また、9月12日（水）には、滋賀県建設業協会甲賀支部によるチャリティーゴルフ大会が開催され、寄せられたご浄財25万3千円を防災対策に活用くださいと市にご寄付いただきました。当日は、中嶋市長が贈呈式に参加、「災害に強いまちづくりに役立てます。」とお礼の言葉を述べました。